

2022年卒
Vol.10

10月1日時点の就職活動調査〈速報〉

キャリアス就活2022 学生モニター調査結果 (2021年10月発行)

正式内定解禁(10月1日)を迎え、内定状況はどのように変化しただろうか。キャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は88.4%と高水準ながらも、前年同期実績を僅かに下回った。

今回も内定状況のほか多岐にわたる項目を調査したが、その中から取り急ぎ内定式に関するデータを紹介したい。

※2021年10月8日に掲載しましたグラフに誤りがありました。訂正してお詫びいたします(10月25日) 正誤表は[こちら](#)

1. 10月1日時点の内定状況

- 内定率は88.4%。前回調査(7月調査、80.1%)から3カ月間の伸びは8.3ポイント
- 前年同期実績(88.6%)を僅かに下回る

2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」54.7%。前年調査(58.7%)より減少

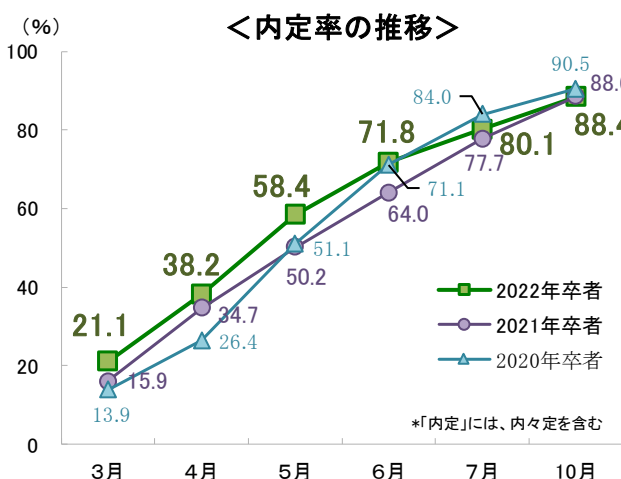
3. 内定式について

- 内定式があった学生は67.3%。コロナ前(2020年卒、75.1%)に比べ7.8ポイント減少

1. 10月1日時点の内定状況

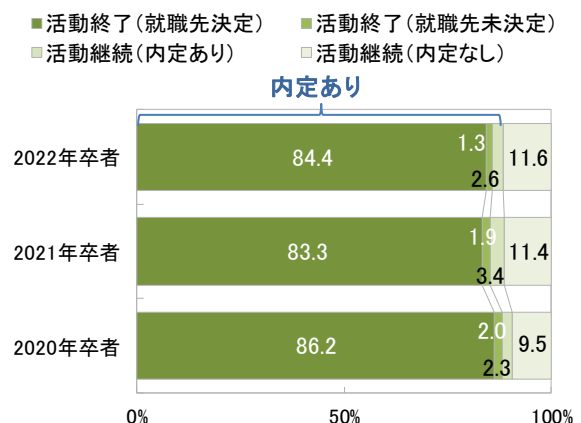
10月1日現在の学生モニターの内定率は88.4%。前回調査(7月1日時点)の80.1%から8.3ポイント伸びたが、前年実績(88.6%)を僅かに下回った。今期を振り返ると、企業の動き出しが早く、序盤から高い内定率をマーク。6月までは過去2年より高かったが、7月にはコロナ前の20年卒を下回り、正式内定のタイミングでは21年卒をも下回る結果になった。

調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は84.4%。複数内定を保留しているなどの未決定者(1.3%)を合わせると、活動終了者は85.7%となり、前年同期(85.2%)をやや上回る。



※各月1日時点。8月、9月は調査なし。

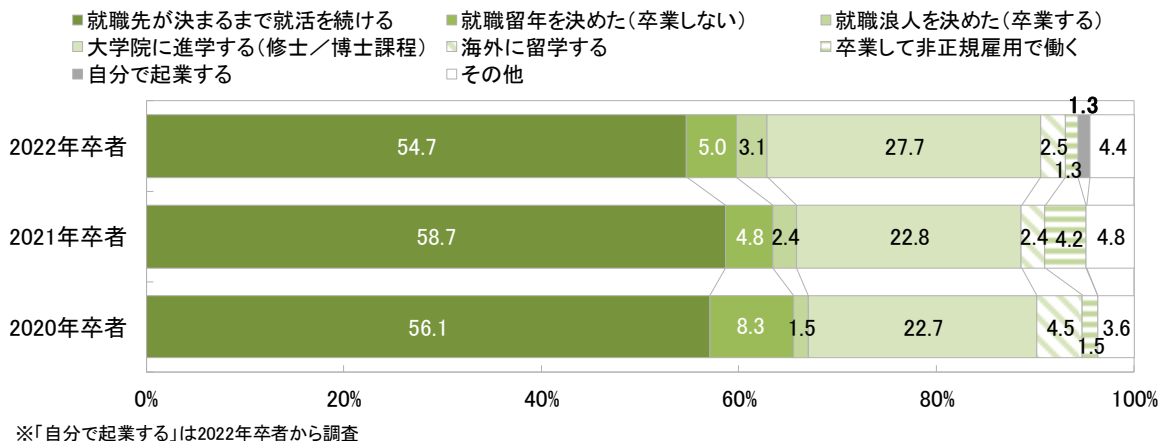
〈活動状況の分布〉



2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

10月1日時点で就職先が決まっていない学生に、今後の予定を尋ねた。「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が半数を超えるが、前年調査より割合が下がり (58.7%→54.7%)、就職以外の進路を考えている学生が増加した。「大学院に進学する」が3割に迫り (27.7%)、より専門的な学問を修得してから就職したいと考える層に加え、コロナ禍がある程度収束してから就職したいという意見も見られた。

＜就職先が決まっていない学生の今後の予定＞

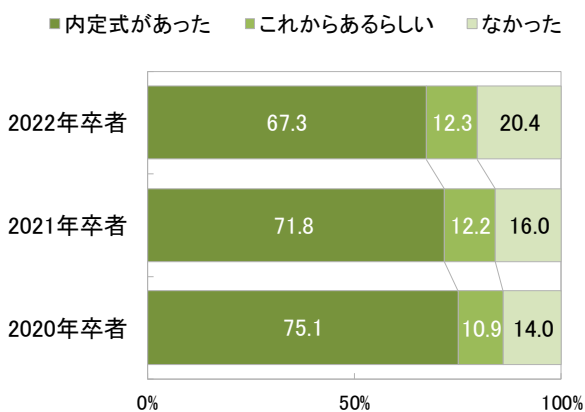


3. 内定式について

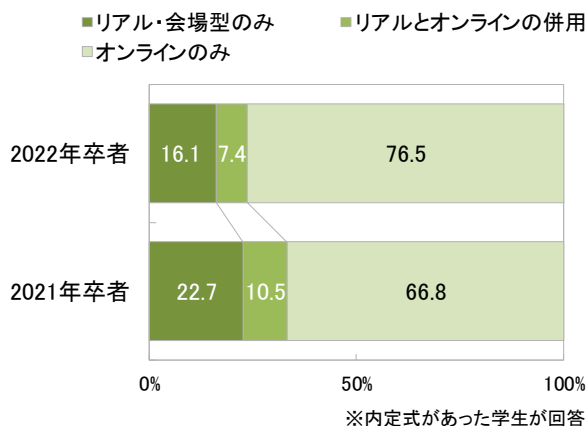
就職先が決まっている学生に、10月1日前後の内定式の有無を尋ねた。「内定式があった」という学生は67.3%で、2年連続で減少した。コロナ禍で実施が難しく見送った企業もあるのだろう。

内定式があった学生に、その形式を重ねて尋ねると、「オンラインのみ」が76.5%で、前年(66.8%)より約10ポイント増えた。会場型との併用を含めるとオンラインは8割を超える(計83.9%)。

＜内定式の有無＞



＜内定式の形式＞



調査概要

- 調査対象 : 2022年3月に卒業予定の大学4年生 (理系は大学院修士課程2年生含む)
- 回答者数 : 1,116人 (文系男子347人、文系女子330人、理系男子308人、理系女子131人)
- 調査方法 : インターネット調査法
- 調査期間 : 2021年10月1日~7日
- サンプリング : キャリタス就活2022学生モニター